

# アグリ筑西

## 2020 12月号

冬も本番が近付いてきました。年越しに向けて、体調を崩さないように作業しましょう。

県西農林事務所 経営・普及部門  
 (筑西地域農業改良普及センター) 発行  
 Tel : 0296(24)9206 Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス! ↑

## ナシ黒星病防除にむけて落葉処理を行いましょ

本年は春先の芽基部病斑が多く、開花期や梅雨の天候が不順であったことから、果実においても黒星病が多発しました。また、病害虫防除所の調査によると、秋型病斑の発生も例年より多く(表)、圃場内の菌密度もかなり高くなっています。

表: 県内19地点におけるナシ黒星病秋型病斑の発病度と発生地点率

発病度※		発生地点率(%)	
本年	平年	本年	平年
4.8	0.8	83	62



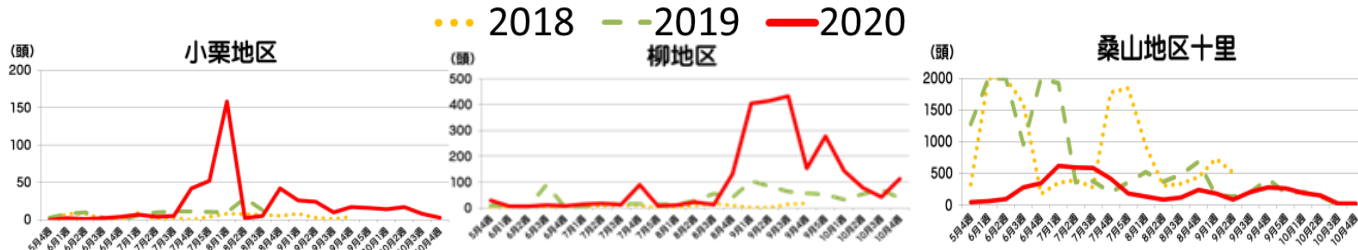
※圃場あたり300葉について発病程度を基に算出した値(最小0, 最大100)

黒星病菌は落葉上で越冬すると、葉上に多数の子のう殻を形成します。その中には多数の胞子が含まれています。1枚の葉に複数の子のう殻が形成されるため、圃場全体では無数の胞子が存在することとなります。したがって、落葉はできるだけ園外に持ち出したり、草刈り機で粉碎後にロータリーでうないこんだりして、圃場内の菌量をできるだけ減らしましょう。

## トマトコナジラミ類対策の徹底をお願いします

当普及センターでは、トマト黄化葉巻病・黄化病への注意喚起を目的に、これらのウイルス病を媒介するコナジラミ類の発生モニタリング調査(6月~10月、毎週1回調査)を行っています。この調査は抑制トマトの栽培が多く、発病が問題となる筑西市内の3カ所で実施しています。

今年は、コナジラミ類の局所的な大発生はないものの、例年比較的発生の少ない地域においても増加傾向が見られ、地域全体で広く黄化葉巻病の被害が報告されています。



グラフ: 黄色粘着板1枚(片面)あたりのコナジラミ類捕獲頭数(2000頭まででカウント打ち止め)

抑制トマトの栽培は終了しますが、促成・半促成作と産地としてのトマト栽培は続いています。トマト生産者及び家庭菜園等でのトマト栽培者の皆様においては、引き続きコナジラミ類の防除の徹底及びウイルス病の根絶に向けた産地一体となった対策へのご協力をお願いいたします。

## 令和2年度 第1回農業女子会講座を開催

10月29日、令和2年度農業女子会開講式及び第1回講座を開催し、受講生8名が参加しました。

当日は「夢が広がる！農産加工の世界！」と題して、(株)ORIGINESSより野菜ソムリエプロでフードコーディネーターの田野島 万由子 氏を講師に迎え、6次産業化や農産加工について学び理解を深めました。受講者から、農産物販売に係る表示対応等について講師にアドバイスを求める様子が見受けられました。またアンケート結果から、「農産加工について知識がないまま参加したが、とても勉強になった」、「農産加工は安易に進めず、計画的に行なう必要がある」などの感想が聞かれ、受講者には学ぶことの多い有意義な講座となりました。



写真：講座の様子

当部門では、今年度の今後の農業女子会について経営講座や圃場管理講座、雇用管理講座を計画しており、受講者の農業経営や仲間づくりへの支援を引き続き行っていきます。

## 農業学園「土壌肥料講座」を開催しました

10月20日、筑西合同庁舎において令和2年度農業学園第3回講座「土壌肥料講座」を開催しました。



写真：講座の様子

今回の講座は、筑西、結城、坂東普及センター管内の受講者が参加する県西広域講座の位置付けで、筑西管内の若手生産者12名を含む、19名が参加しました。講師には片倉コープ株式会社の日下部氏及び滝田氏を迎え、「土壌肥料と土壌改良資材について」及び「肥料製造工程」について講義をいただきました。

前段は有機質肥料と土壌微生物についての内容を中心に講義をいただき、有機質肥料の特徴や効果について学びました。また後段では原料が、粉碎・造粒・包装などの作業を経て、製品になる工程を、映像を見ながら学びました。

学園生からは、「有機質肥料の重要性が理解できた」「資材の使用法や効果が理解できた」との感想があり、有意義な研修となりました。

### 普及員のひとりごと ～飯塚 俊祐～

15年ぶりの普及センター勤務となりますが、県内でも農業が盛んな地域ということで、日々、緊張感を持ちつつ勤務しています。

農業を維持・発展させていくためには、他産業からの参入を含め、新規就農者の確保が喫緊の課題だと認識しています。農業三士の皆さま等と連携させて頂き、この課題に対応して参る所存ですので宜しくお願いします。